

論文審査の要旨

報告番号	甲 第 2563 号	氏 名	荒井 潤
論文審査担当者	主査 平野 勉 教授 副査 田中 和生 教授 副査 宮崎 章 教授		
<p>本研究は、B型肝炎ウイルス（HBV）感染者におけるリンパ増殖性疾患（LPD）やB細胞異常の有無について血清及び免疫関連マーカー、ウイルスマーカーを解析し、HBV増殖状態との関連を検討した。B型慢性肝炎患者の約40%に血中RF値の増加が認められ、HBV感染者ではリウマチ因子（RF）異常高値の頻度が高いこと、一方でHBV低ウイルス量の患者、核酸アナログ治療中の患者群ではRF異常が低頻度であることが示され、HBVのウイルス血症がRF異常に関連していると推察された。特に3.0 log copies/ml未満の低ウイルス量患者でRF異常は低頻度であり、また核酸アナログ治療を行っている患者でRF異常は2例のみで、2例ともに解析時4.0 log copies/ml以上と陰性化前の状態であった。さらにRF値が高値を示した患者で核酸アナログ療法前後のHBV DNAの変化とRF値の推移を観察し得た2例において、HBV血症改善に伴いRF値の正常化が確認された。慢性B型肝炎患者のRFは自己IgGのFc部分に結合する自己抗体であり、B型慢性肝炎患者において、B細胞のRF産生異常はHBVが惹起する免疫複合体形成、B細胞の異常活性化などが関連すると推察され、この異常が液性免疫能に影響し、肝外病変発症に関連する可能性が示唆された。</p> <p>本研究は、CH-B患者においてRF高値が39.0%と高頻度であることを発見し、CH-BにおいてHBV血症がRF異常に関連することを明らかにし、新しい知見を得ていることから学術上価値があるものと考えられ、学位論文に値すると判断した。</p> <p>High level of rheumatoid factor is associated with viremia of hepatitis B virus in patients with chronic hepatitis B (B型慢性肝炎患者における高レベルの血清リウマチ因子とHBVウイルス血症との関連)</p> <p>THE SHOWA UNIVERSITY JOURNAL of MEDICAL SCIENCES, Vol.26 No.1 (平成26年3月発刊) 掲載予定</p>			